

## 平成28年度 公立小中学校における長期欠席（不登校）の状況等

### 1 概要（表1・表2・図1・図2参照）

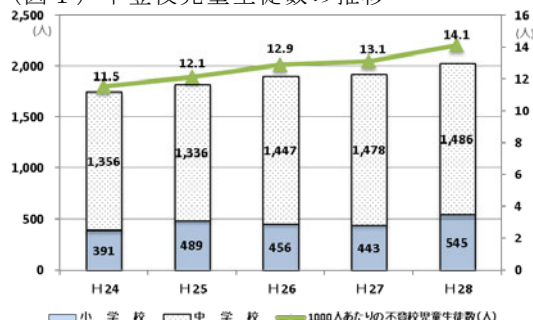
- 平成28年度の公立小中学校における長期欠席児童生徒数は2,931人で、小学校は971人、中学校は1,960人。理由別では、「病気」491人、「経済的理由」0人、「不登校」2,031人、「その他」409人。
  - 不登校児童生徒数は、平成27年度と比較して110人増加（前年度比5.7%増）。
- （小学校545人（前年度比102人増）、中学校1,486人（同8人増））

（表1）理由別長期欠席者の状況

	校種	在籍者数	理由別長期欠席者数				計	不登校出現率(%)
			病気	経済的理由	不登校	その他		
H27	小学校	96,501	188	2	443	221	854	0.46%
	中学校	49,716	194	1	1,478	111	1,784	2.97%
	合計	146,217	382	3	1,921	332	2,638	1.31%
H28	小学校	95,438	217	0	545	209	971	0.57%
	中学校	48,703	274	0	1,486	200	1,960	3.05%
	合計	144,141	491	0	2,031	409	2,931	1.41%

- 学年別の不登校児童生徒数では、中学3年生の578人が最多。
- 1,000人あたりの不登校児童生徒数は14.1人。（前年度比1.0人増）不登校児童生徒のうち、90日以上欠席している児童生徒数は1,208人で、全体の59.5%。（小学校255人、中学校953人）

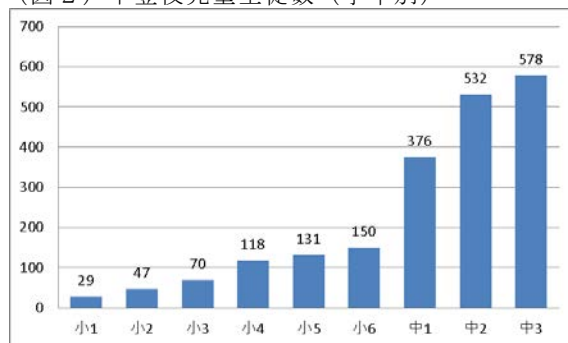
（図1）不登校児童生徒数の推移



### 2 不登校の要因と考えられる状況（複数回答：表3参照）

- 分類別児童生徒数は、小中学校ともに「『無気力』の傾向がある」（小学校187人、中学校539人）が最多で、そのうち最も多い区分は「家庭に係る状況」（小学校151人、中学校282人）。
- 次に多い分類別児童生徒数は、小中学校ともに「『不安』の傾向がある」（小学校173人、中学校404人）で、そのうち最も多い区分は、小学校は「家庭に係る状況」（87人）で、中学校は「いじめを除く友人関係をめぐる問題」（181人）。

（図2）不登校児童生徒数（学年別）



### 3 不登校児童生徒への指導結果（複数回答：表4参照）

- 「指導の結果、登校する又は登校できるようになった児童生徒」は、小学校では103人（18.9%）、中学校では364人（24.5%）。
- 特に効果のあった学校の措置は、小中学校ともに「家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った」（小学校60人、中学校212人）。（「効果のあった学校の措置」に係る調査については、県独自で調査したもの。）

### 4 相談・指導を受けた専門機関等（複数回答：表5-1, 5-2参照）

- 学校内、学校外において、担任以外の専門的な相談・指導を受けている児童生徒の実人数の合計は、小学校508人、中学校1198人。
- 学校内において、最も多いのは、小中学校ともに「スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた」（小学校216人、中学校440人）。
- 学校外において、最も多いのは、小学校が「教育委員会および教育センター等教育委員会所管の機関」（118人）、中学校が「教育支援センター（適応指導教室）」（314人）。